YOKKAICHI
四日市市制120周年

市制施行
明治30(1897)年8月1日

写真で見る海蔵地区の移り変わり

海蔵の町が大きく変わりました。
地区内のいくつかの地域の変化を、航空写真によりご紹介します。

海蔵地区まちづくり協議会

市制120周年協賛
平成30年3月
地区広報かいそう　第64号
別冊

市道赤堀山城線が市中心部へ開通した海蔵地区市民センター・小学校・幼稚園付近

平成１３年１月撮影

平成２８年１月撮影

海蔵地区市民センター

昭和５９年７月に新築完成し、現在の海蔵小学校の運動場の北東角にあった木造の施設から移転しました。

なお、昭和５５年４月１日から、市内各地区の出張所が従来の窓口業務と共に公民館としての役割も持つ地区市民センターという名称になりました。

海蔵幼稚園

昭和２２年６月１８日に四日市市私立海蔵幼稚園として海蔵小学校に付設され、同校長が園長を兼務しました。

翌年４月１日に市へ移管され、四日市市立海蔵幼稚園と改称されました。その後、昭和３２年３月４日に現在地に新園舎が落成し、同年４月１日から専任の園長となりました。

海蔵小学校

明治８年７月１日に三重郡西阿倉川村・東阿倉川村・末永村・浜一色村・川原町を校区として、末永村の正福寺に海蔵学校が開設されました。明治２０年に海蔵尋常小学校、同３０年８月１日の四日市町の市制実施に伴い、同町との組合立から海蔵村立海蔵尋常小学校となりました。その後、現在地に校舎が新築され、明治３２年５月２日に移転しました。明治４０年４月には高等科を併設し、尋常高等小学校となりました。昭和５年１月１日に海蔵村が四日市市に合併し、四日市市立海蔵尋常高等小学校に、同１６年４月１日には海蔵国民学校と改称されました。昭和２２年３月３１日に教育基本法等が公布され、新学制のもと同２２年４月１日に四日市市立海蔵小学校と改称されました。

都市計画道路　市道赤堀山城線

海蔵地区市民センターの南側を走る道路です。同センター前の交差点以西は平成６年に着工し、同８年に完成しました。
以東の道路は平成１３年７月に着工し、海蔵川の末広橋も架け替えられ、同１６年３月に三滝川の堀木橋まで完成して開通しました。

都市計画道路　市道午起末永線整備前の踏切
（平成１９年１０月撮影）

町全体が大きく変わった
末永・本郷地区
（三滝川・三滝川分派・海蔵川・近鉄名古屋線に囲まれた地域）

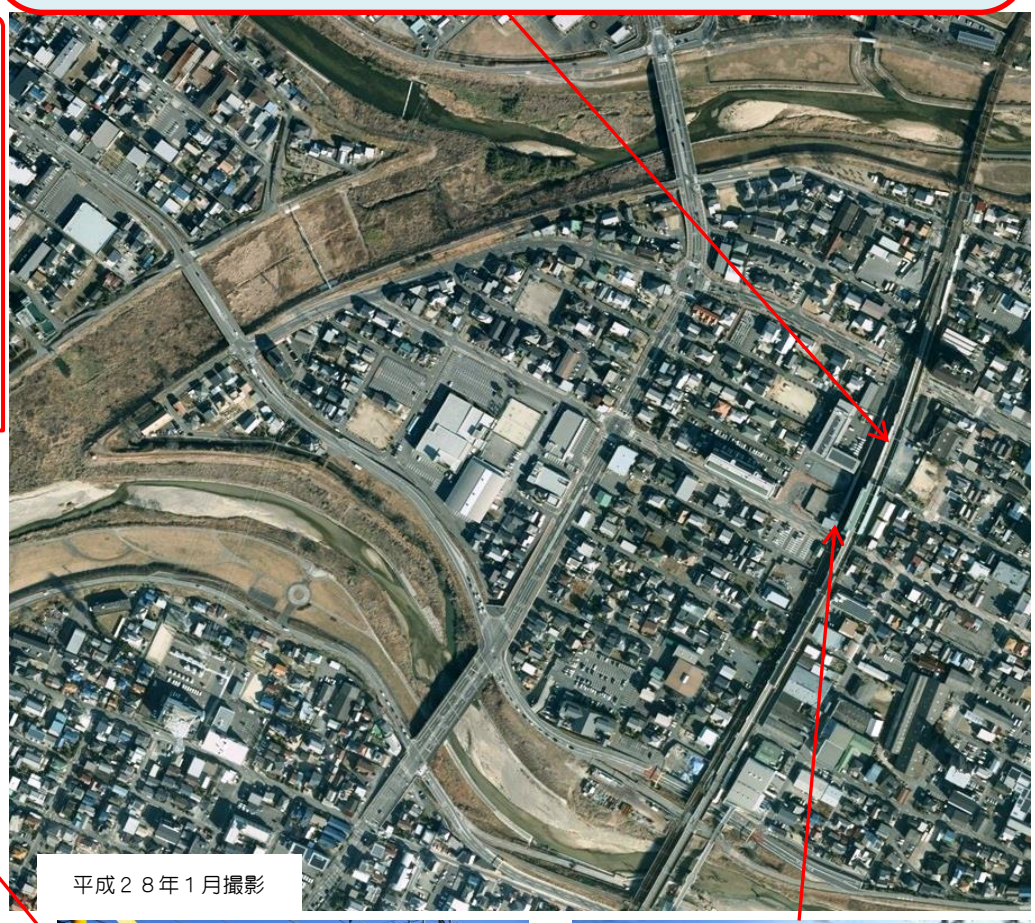
近鉄川原町駅付近連続立体交差事業

鉄道踏切除去による市街地交通の円滑化を目的に、昭和４６年７月に国道１号～四日市駅～海蔵川右岸間の連続立体交差事業について、県の都市計画決定が行われました。

平成１９年２月に、未実施となっていた三滝川左岸堤防周辺から海蔵川右岸堤防までの間の整備が、近鉄川原町駅付近連続立体交差事業として国の事業認可がなされ、同年１１月に県・市・近畿日本鉄道の工事協定が締結されて、工事が進められました。
完成は平成３２年３月の予定で、事業費は約１１３億円です。

末広橋の川下側にあった人道橋

昭和６２年１月撮影



平成２８年１月撮影

末永・本郷土地区画整理事業

末永・本郷地区は、中心市街地と後背地を結ぶ結節点に位置します。

しかし、住宅・工場の混在、老朽密集の課題があったことから、住環境と都市計画道路を整備し、都市機能の向上を図ることを目的として、昭和５８年２月に市において都市計画決定がなされました。平成２年８月に県の事業認可を受け、諸準備の後、同４年７月に道路築造・住宅造成工事が着手されました。

現在は、事業の殆どが終わり、住居表示等の事業が残っています。
○面積：２４．８ha
○建物移転件数：４１１戸
○総事業費：１５４億８，１００万円
○施行期間：平成２年８月２０日
～平成３３年３月３１日

旧川原町駅舎（平成２１年５月撤去）

（仮）川原町駅舎（平成２９年２月撤去）
と建設中の新駅舎